3　研究の実践と考察

(1)　小学校の実践と考察

ア　事前調査から見える児童の実態

授業の実践をするに当たり、〔共通事項〕と言語活動について事前調査を行いました。〔共通事項〕については、作品等とらえている視点について、言語活動は、自分の作品について書いたり話したりする活動と友達の作品や美術作品について書いたり話したりする活動について、調査を行いました。

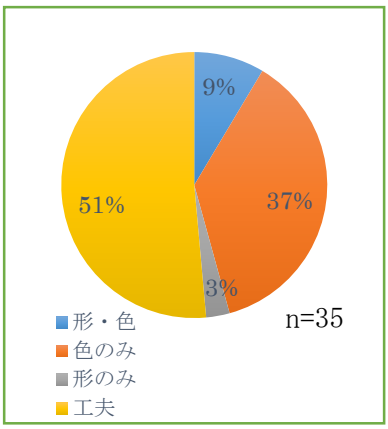


図１　作品等をとらえている視点

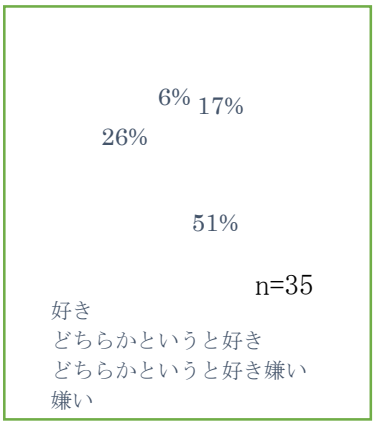


図２　自分の作品について書いたり話したりする活動

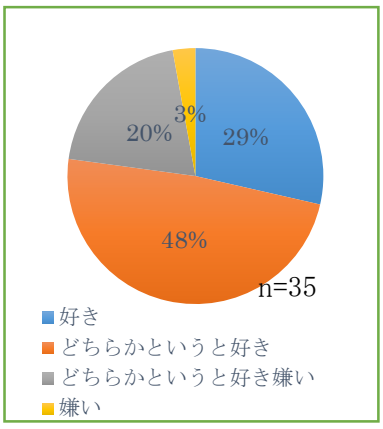


図３　友達の作品や美術作品について書いたり話したりする活動

作品等をとらえている視点については、約半数の児童はその作品の工夫しているところと回答しているところから、〔共通事項〕に含まれている造形的な特徴を視点に作品を見ていないことが分かります(**図１**)。

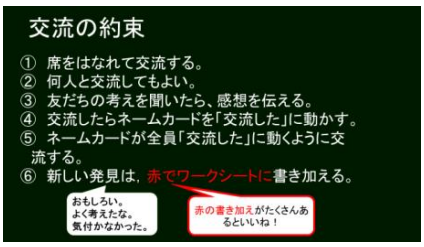
自分の作品について書いたり話したりするなどの言語活動についての問いに対して、「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」と回答した児童の理由としては、「説明が苦手」「自分の作品に自信がない」「恥ずかしい」「発表が苦手」などがありました。これは、自分の作品について何を根拠に話したらよいかが分からなかったり、自分の作品を「上手」「下手」などという視点で見ていたりするためだと思われます(**図２**)。

友達の作品や美術作品について書いたり話したりするなどの言語活動についての問いに対して、「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」と回答した児童の理由のほとんどは、「説明が苦手だから」というものでした。これも、自分の作品について書いたり話したりする言語活動同様、何を根拠に話したらよいのかが分からないためだと思われます(**図３**)。

自他の作品や美術作品について書いたり話したりする言語活動を「好き」、「どちらかと言えば好き」と回答した児童の理由にも形や色の造形的な特徴についての記述は見られませんでした。

しかし、実態調査からは、ほとんどの児童は、自分の作品のことを知ってほしい、作品をもっとよくしたいという思いをもっていることも分かりました。

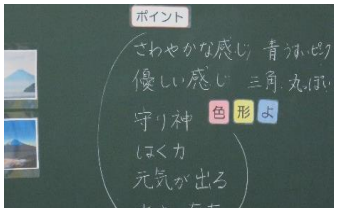
以上のような児童の実態を踏まえ、自他の作品や美術作品の形や色の造形的な特徴をとらえることや、それを基に自他の作品や美術作品について書いたり話し合ったりする言語活動を取り入れることで、児童の創造活動をより豊かなものにできると考えます。これらのことから、小学校図画工作科では、〔共通事項〕の指導に関する事項のうち形や色などを意識した言語活動を取り入れることとしました。

考える	3　「神奈川沖浪裏」に描かれているものの形や色、様子を基に考える。 ○形や色、様子を基に、感じたことや思ったことをワークシートに記入する。 言語活動① （学習活動の分類①）	○形や色や様子から感じたことや思ったことをワークシートに書きましょう。どのポイントを使ったかは、矢印で分かるようにしておきましょう。 ○２つのポイントから自分のイメージをもちましょう。 ○３つ以上のポイントから自分のイメージをもつことができたら、もっといいですね。 	・「神奈川沖浪裏」に描かれているものを基に、自分なりに感じたことや思ったことをワークシートに記入させる。 【鑑賞の能力】 ◎色や形，様子のうち３つ以上の根拠から，自分のイメージをもっている。 ○色や形，様子のうち２つの根拠から自分のイメージをもっている。 （観察・発言・ワークシート） ●板書の「鑑賞のポイント」を基に、自分のイメージをもつことができるように励ます。
交流する	4　ワークシートに書いたことを基に、友達と交流する。 言語活動② （学習活動の分類⑥）	○自分がどんなイメージをもったか、友だちがどんなイメージをもったかを話し合ってみましょう。  	・友達との交流は、友達がどんなことを感じたり、思ったりしたのかを知るためのものであることを伝える。 ・交流のときの約束を確認する。

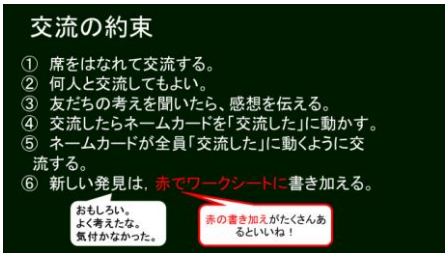
深める	5　友達との交流で気付いたことを発表する。	○友達と交流して、新しい発見がありましたか。 ・○○さんが、富士山が遠くに見えるのは、波を大きく見せるためだということを友達と話して発見しました。 ・船に人がしがみついている様子は、波がすごく荒れていることを表しているようだというのがすごいと思いました。 ・波の形や、様子から風が吹いていることに気付いているところが、なるほどと思いました。	・友達との交流で気付いたことを発表させる。 ・友達の考えを聞くことで、同じ作品を見ても、それぞれがもつイメージが異なることに気付かせる。
	6　本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。 ○ワークシートに本時の感想を書く。 言語活動③ (学習活動の分類⑥)	○友達との交流で、新しい発見がたくさんあったようですね。同じ形や色、様子からでも感じたり思ったりすることは一人一人違うのですね。 ○次の時間は、自分のイメージから身近な山を描いてみましょう。 2時目は,身近な山を自分のイメージで描きます！	・ワークシートに本時の感想を書かせ、学習の振り返りをさせる。 ・次時は、今日の学習を基に、身近な山を描くことを伝える。

7　本時の目標(第２時)

身近な山について自分の思い描いたイメージが表れるように形や色などを考え、自他の作品について楽しみながら書いたり話し合ったりすることを通して、よさや美しさを感じ取っている。

過程	学習活動	教師の発問(○)と児童の反応(・) 児童のつぶやき	教師の働きかけ・評価 (◎：Aの判定基準　○：Bの判定基準　●：Cへの支援)
つかむ	1　前時のワークシートを見ながら、前時の学習を振り返る。	○(富嶽三十六景を提示して)同じ富士山でも描き方が違いますね。皆さんは身近な山にどんなイメージをもっていますか。 ・さわやかな感じ ・優しい感じ ・元気が出る ・大きな存在 	・それぞれがもつイメージは、形や色、様子などの造形的特徴が基になっていることを確認する。

		○それぞれのイメージから形や色を考えてみましょう。 ・さわやかな感じは青い色で出したい。 ・迫力は大きくて濃い緑で出したい。	
	2　本時の目標を知る。	自分のイメージの山を描こう	
考える	3　身近な山について自分のイメージをもつ 言語活動① （学習活動の分類①）	○身近な山のイメージを形や色で表すとどうなるか考えてみましょう。形と色の両方から考えられるともっといいですね。 大きなイメージをでこぼこした形と緑色で出してみよう。 神様がいる山のイメージを丸さやいろいろな緑で表してみようかな。 優しい感じを黄緑やゆるやかな線で表そう。近くに町も入れよう。	・本時は、前時の学習を基にして、自分のイメージの身近な山を描くことを伝える。 ・身近な山のイメージをもたせ、その形や色、様子などを考えさせ、ワークシートに記入させる。 【発想や構想の能力】 ◎身近な山のイメージを形と色の両方から考えている。 ○身近な山のイメージを形や色のうちどちらか一方から考えている。 （ワークシート，発言） ●身近な山を形や色から考えることができない児童には前時のワークシートや、友達の考えを参考にするよう促す。
	3　身近な山を描く。 ・身近な山にもっているイメージを形や色に表す。	○身近な山を自分のイメージを基に考えた形や色で描きましょう。 自分のイメージの色を考えるのって楽しい。 ちょっと難しい。 	・身近な山にもつイメージに合う描画材を使って描くことを確認する。
	4　描いた山の	○描いた身近な山を基に、友達と交流しましまし	・友達との交流は、お互いのも

交流する	絵について友達と交流する。 言語活動② （学習活動の分類①）	ょう。 ○身近な山のイメージを、形や色、様子などを基に話し合えるといいですね。  堂々とした感じを大きさで表したんだね。 見守っている山のイメージで丸っぽい三角にしたよ。色は緑の中にオレンジも入れたよ。	つ山のイメージを形や色、様子を基に話し合うためのものであることを確認する。 【造形への関心・意欲・態度】 ◎自他の作品のよさや美しさを形や色，様子から楽しもうとしている。 ○自他の作品のよさや美しさを自分の思いをもって楽しもうとしている。 （観察・発言） ●交流できない児童には、交流している友達の所へ行くように促す。 【鑑賞の能力】 ◎自他の作品の，形や色様子から，よさや美しさなどを感じ取っている。 ○自他の作品の形や色からよさや美しさを感じ取っている。 (ワークシート，作品，発言) ●板書を確認したり、友達の考えを聞いたりするよう促し、自分なりによさや美しさを感じ取ることができるよう励ます。
深める	5　本時の学習を振り返る。 ○友達との交流で感じたことをワークシートに記入する。 言語活動③ （学習活動の分類⑥） ○本時の感想を発表する。	○交流で感じたことをワークシートに赤で記入しましょう。 ○学習の振り返りを書きましょう。 イメージから形や色を考える学習は楽しかった。 イメージから描く山の形や色がみんな違っていて面白かった。	・交流で感じたことをワークシートに記入させる。 ・本時を振り返り、感想を発表する。 ・イメージから考える形や色、様子は、一人一人違うことを知らせ、それを大切にするよう伝える。

ウ　授業の考察

●考察の視点

(ｱ)　電子黒板、黒板、掲示物は児童に形や色の視点をもたせるために有効であったか。
(ｲ)　ワークシートは、児童が自分の見方や考え方をもつのに有効であったか。
(ｳ)　交流活動は、児童が自分の見方や考え方を広げるのに有効であったか。
(ｴ)　形や色を意識した振り返りは、児童が自分の見方や考え方を深めるのに有効であったか。

(ｱ)　電子黒板、黒板、掲示物は児童に形や色の視点をもたせるために有効であったか。

神奈川沖浪裏」に描かれているものの形や色、様子の造形的な特徴については、児童の発言を黒板に残しました。その後、造形的な特徴を基に感じたことや思ったことを書く言語活動を行いました。

児童が見つけた形や色、様子の造形的な特徴は板書して黒板に残すようにしました。黒板に残した形や色、様子の造形的な特徴は、感じたことや思ったことをワークシートに書く活動、交流活動、振り返りの活動をする際に参考にすることができ、形や色の視点を児童にもたせるために有効だったと考えます。電子黒板は、書く活動をする際のワークシートの使い方や文型等の提示、交流活動をする際の「交流の約束」の提示に使用しました。このことで、児童は書く活動や交流活動へスムーズに入ることができたと考えます。

(ｲ)　ワークシートは、児童が自分の見方や考え方をもつのに有効であったか。

ワークシートに書く活動の前に、評価の目安として、２つ以上の形や色、様子の造形的な特徴から感じたことや思ったことを書くことを示しました。また、どの造形的な特徴を基に感じたり考えたりしたのかが分かるように、形や色、様子の造形的な特徴を記入するポイントの欄から、自分なりの考えを書く欄に矢印を引くように伝えました。

そうすることで、１時目は、全ての児童が２つ以上の複数の造形的な特徴を基に自分のイメージをもつことができました。

表１　いくつの造形的な特徴を基にイメージをもったか

２つの造形的な特徴を基にイメージをもつことができた	１８人
３つの造形的な特徴を基にイメージをもつことができた	１７人

２時目には、１時目の学習を基に、全ての児童が、複数の造形的な特徴から身近な山のイメージを考えることができました。前時のワークシートを参考に考える児童もおり、形や色を意識したワークシートが有効であったことが分かります。

表２　いくつのイメージに合う形や色、様子を考えることができたか

イメージに合う形や色、様子のうち２つ考えることができた	７人
イメージに合う形や色、様子のうち３つ考えることができた。	２７人

また，形や色，様子の造形的な特徴を記入したポイントの欄からの矢印があることで，感じたり考えたりしたことを上手く文章化することができない児童への支援もしやすくなりました。

(ｳ)　交流活動は、児童が自分の見方や考え方を広げるのに有効であったか。

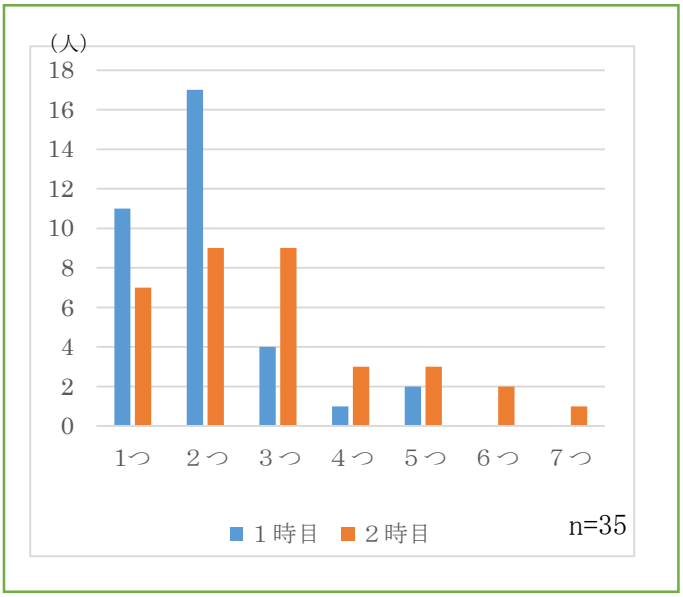


図４　交流後、赤で書き加えた数

交流活動をするにあたっては、交流の約束を電子黒板で提示しました。友達の考えを聞いたら感想を伝えるようにしたことで、考えをしっかり聞くこともできました。

左のグラフは、友達との交流で気付いたことを、新たに赤で書き加えた数です(**図４**)。

言語活動②の友達との交流では、友達がどんなことを感じたり考えたりしているのかを知ることができ、全ての児童が書き加えをすることができました。半数以上の児童は、２つ以上の書き加えをしています。また、１時目よりは２時目の方が、複数の書き加えをした児童が増えています。これは、交流活動を繰り返したことで、より児童が形や色、様子を意識しているためだと思われます。

交流活動によって、児童は同じ造形的な特徴を基にしても、そこから感じたり考えたりすることが一人一人違うことに気付くことができ、見方や感じ方を広げることにつながりました。

また、ネームカードを活用したことで、児童にクラス全体の交流の進み方が視覚的に分かりやすくなり、交流ができていない友達のところへ進んで行って話し合う姿が見られるなど、児童の主体的な交流につながりました。

(ｴ)　形や色を意識した振り返りは、児童が自分の見方や考え方を深めるのに有効であったか。

授業の最後には、振り返りとしてワークシートに書く活動を行いました。

１時目の振り返りは次の２つの視点です。

視点１：形、色、様子から自分のイメージをもつことができましたか。

全ての児童が形や色、様子から自分のイメージをもつことができたと記述していました。１枚の絵をよく見ることで、描かれているものの形や色、様子を見つけることができ、見つけた複数の造形的な特徴から児童は自分なりのイメージをもつことができました。児童が自分の見方や考え方を深めるためには、形や色、様子の造形的な特徴を児童が意識できるようにすることはとても重要です。

視点２：友達と交流して思ったこと

「友達と交流すると自分では見つけられなかったことが分かって良かった。」「友達は自分と違う考えをたくさんもっているんだと思った。」「自分のイメージをもつと、交流のとき自然と友達と比べながら聞くことができた。」等の振り返りをしていました。

ワークシートの記述から、感じたり考えたりしたことについて話し合うことで、同じ絵を見ても、それぞれがもつイメージは違うということを新鮮に受け止める児童が多くいることが分かりました。友達のイメージを知ることは、自分のイメージを広げることにもつながりました。

２時目の振り返りは次の２つの視点です。

視点１：イメージから身近な山の形や色、様子を考える活動はどうでしたか。

「少し難しかったけど、黄緑と緑と合わせてさわやかなイメージにできたので良かった。」「強

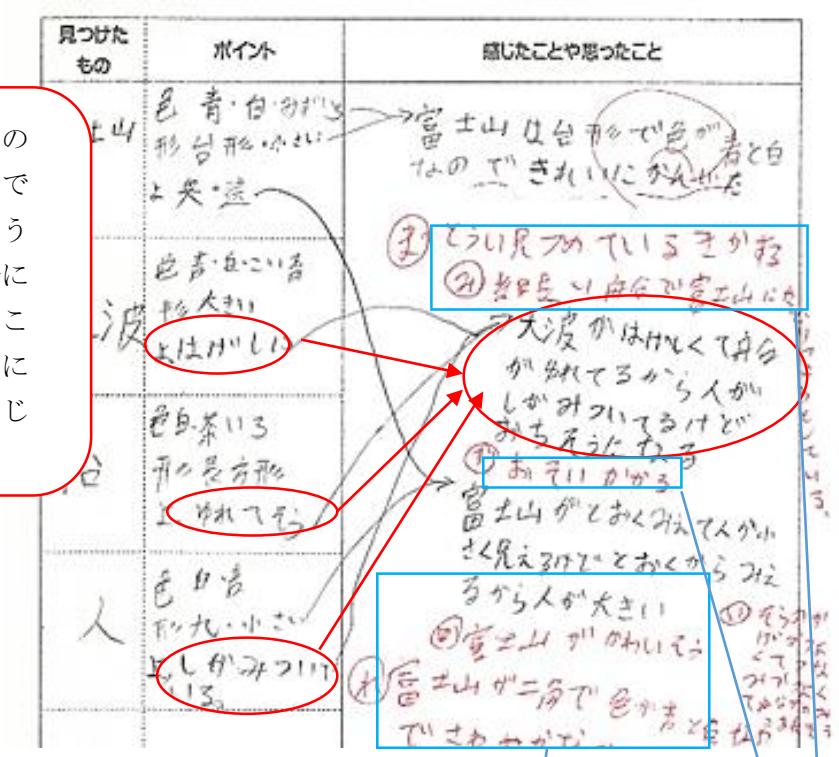
い感じを出すのは難しかったので何度も色を重ねて表した。」「自分が思っていた大きくてきれいな山のイメージを緑をぼかしたり、重ねたりして描けてよかったです。」等の振り返りをしていました。イメージを形や色、様子の複数の造形的な特徴で表すことを考える活動は、児童の見方や考え方の広がりにつながっていることが分かります。

視点２：友達との交流活動はどうでしたか。

「友達は私には思いつかないことを考えていました。みんなうすかったり濃かったりいろいろなぬり方をしていました。意見や感じたことを話し合えて楽しかったです。」「友だちが山の様子はどっしりしているので力強い緑で大きくと書いていたのでいい考えだと思いました。」「友だちは自分と違う考えで「あー」と思った。交流はやっぱりいいなと思った。」等の振り返りをしていました。

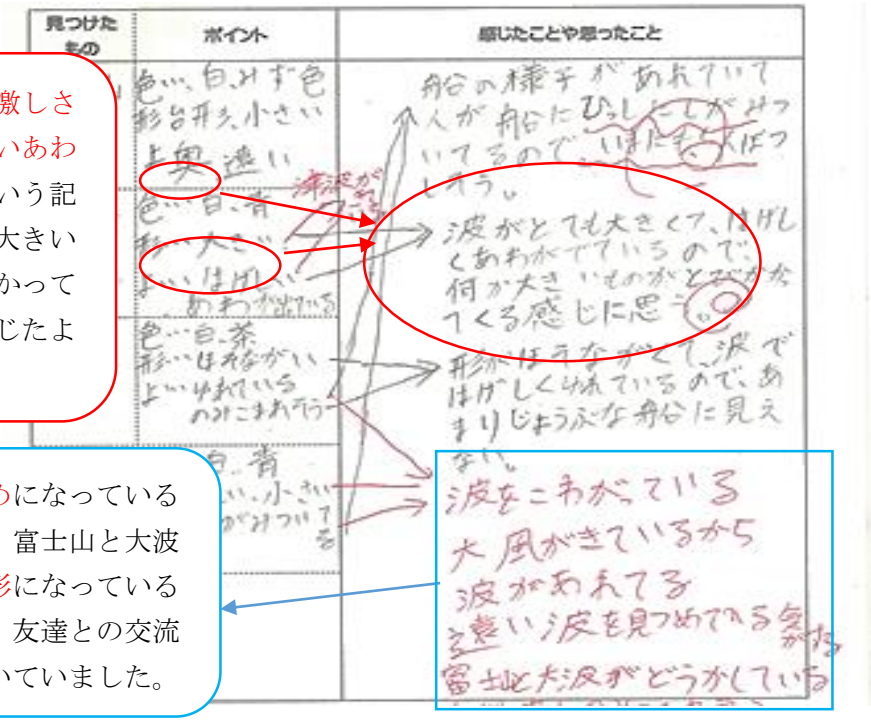
以上のような児童の記述から、形や色を意識した振り返りは、自分とは違うイメージを友達がもっていることやイメージから考える形や色、様子がそれぞれ違うことに気付き、児童の見方や考え方を深めることに有効であると考えます。

児童のワークシート



C児は，大きい波の激しさ，船が斜めで揺れているという記述から，人が船にしがみついていることから，自分なりに自然の大きさを感じ取っています。

友達との交流では，同じ形や色などからでも，一人一人イメージが違ってくることを知りました。



資料１　児童のワークシート

抽出児の見方や考え方の深まり（ワークシートの記述や交流活動などから）

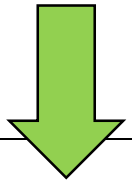
※　形や色、様子の造形的な特徴に関する記述を赤色で表示しています。

※　ここは、事前調査とそこからから分かる抽出児の実態です。

	記述や交流活動	A児	観察、発言、ワークシートから見える見方や考え方の深まり
事前調査	作品等を見る視点	中心となっているもの	作品等を見るとき、形や色などの造形的な特徴を基にはしていない。また、自分の作品について、言葉で表す自信がないことが分かる。
	自分の作品について話したり書いたりする活動について	言葉で表す自信がない。	
	友達の作品や美術作品について書いたり話したりする活動について	友達がどんな絵を描いているか気になる。	
神奈川沖①	「神奈川沖浪裏」を見て見つけた造形的な特徴	形：波の形が大きい 色：白い泡 様子：波が激しい、遠く、人がしがみついているなど	板書を参考にすることで描かれているものの形や色、様子の造形的な特徴をとらえることができた。
	造形的な特徴を基に自分のイメージ	・大波の形が大きくて、白い泡があって、様子が激しいことから、海が嵐になっているのではないかと思った。 ・人が飲み込まれそうな船に必死にしがみついている様子から、今までにない災害が起こるのではないかと思った。	描かれているものの形や色、様子の造形的な特徴（赤色）から自分のイメージをもつことができた。

		・富士山が遠くにあるので、大きな波であることが分かる。	
	友達と交流して新しい発見 （赤色での付け加え）	・（船が木造であることと波が大きいことから）船が飲み込まれそう。人が船にしがみついているのは海が荒れている。 ・堤防などの高いところから見ていそう。船の様子が斜めになっていて揺れていて人が落ちそう。	友達との交流で、自分とは違う見方や考え方を知ることができた。
	振り返り ①形、色、様子から自分のイメージをもつことができたか。 ②友達と交流して	①自分のイメージをしっかりもつことができた。 ②○○さんの「堤防の高いところから見た海を描いたのではないか」というイメージになるほどと思った。	
神奈川沖②	振り返り ①自分のイメージの色や形などを考えて身近な山を描く活動について ②友達と交流して	①いざ絵にしてみると優しい感じというよりもさわやかな感じになった。 ②友達はイメージ通りの色や形の絵を描いていた。私も頑張って上手に絵を描こうと思った。	優しい感じの山にしようとしたが、考えた形や色で表すとさわやかな感じになったという感想をもっていた。 交流では、形や色、様子の造形的な特徴に意識があることが分かる。

	児童の記述	B児	観察、発言、ワークシートから見える見方や考え方の深まり
事前調査	事前の見る視点	色使い　その人なりの描き方	造形的な特徴である色についての意識がある。作品について話したり書いたりすることについては、積極的である。
	自分の作品について話したり書いたりする活動について	自分の作品のことを相手に分かってもらえるのは嬉しい	
	友達の作品や美術作品について書いたり話したりする活動について	良いところを見つけて話すのは楽しい。	
神奈川沖①	「神奈川沖浪裏」を見て見つけた造形的な特徴	形：富士山が小さい、人が小さい　波が細長いなど 色：波が青い、 様子：人がしがみついている、波が激しい　など	友達の発言や板書を参考にすることで描かれているものの形や色などの造形的な特徴をとらえることができた。
	造形的な特徴を基に自分のイメージ	・富士山が小さいことと、波がとても大きく激しいところから、小さくて弱い富士山が波に飲み込まれそう。 ・波の色が濃い青で大きくて人が	描かれているものの形や色、様子の造形的な特徴（赤色）から自分のイメージをもつことができた。

		小さく必死に船にしがみついているところから、なみがとても激しく、人をつぶそうとしている。手みたい。 ・波がとても大きくて、船が三日月みたいに細長いところから本当は大きい船が頼りなさそうに見える。	 多くの友達との交流で、自分とは違う見方や考え方を知ることができた。
	友達と交流して新しい発見 （赤色での付け加え）	・富士山が遠くて大波が近いから、富士山が崩されそう。 ・（船が木造であることと波が大きいことから）今にも人が船から落ちて溺れそう。 ・（人が船にしがみついていて、船が細く木造であることから）人が怖がっているみたい。 ・遠い空が富士山の遠さも教えてくれる。 ・大波が富士山の守り神。 ・大波が大きいから大波が主役。人が慌てているから、波は突然来た。	
	振り返り ①形、色、様子から自分のイメージをもつことができたか ②友達と交流して	①色、形、様子から波が大きくてはげしくて、富士山が小さいことから遠くにあって、波が人をおそう手のように見えました。 ②友達と交流して、みんなその場面の様子を詳しく想像していて、私の気づかなかったところを気付いた人もいてすごいと思った。	友達との交流の振り返りでは、自分では気づかなかったことを友達が気づいていたということを知り、見方や考え方が深まったことが分かる。 
神奈川沖②	振り返り ①自分のイメージの色や形などを考えて身近な山を描く活動について ②友達と交流して	①自分のイメージの山に描くのは少し難しかったけど楽しかったです。 ②みんな（色が）うすかったり濃かったりしていました。絵を見て感じたことを話合えて楽しかったです。	イメージから形や色、様子を考える活動を楽しんでいた。 交流活動では、色の濃淡についての気付きがあった。

A児、B児のワークシートの記述や交流活動での姿からも、形や色、様子の造形的な特徴を意識した言語活動は、児童の見方や考え方を深めていることが分かります。

A児は、自分の作品について話したり書いたりする活動について、あまり自信がない様子でしたが、形や色、様子の造形的な特徴を意識した言語活動によって、見方や感じ方を深め、形や色、様子の造形的な特徴を基にした創造活動ができるようになっています。

また、創造活動に積極的であったＢ児においても、学習過程に応じた言語活動によって、形や色、様子の造形的な特徴を基にいろいろな見方や考え方があることを知り、自分の創造活動に生かしていました。

エ　Ａ表現（２）アの実践を通しての児童の意識の高まり

形や色を意識した言語活動が、児童の見方や考え方の深まりにつながったかどうかを、題材「思い出の場所」（Ａ表現（２）ア）の実践から見てみました。視点は次の３点です。

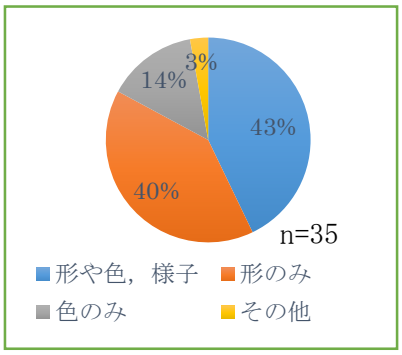


図５　絵を描くときに意識したこと

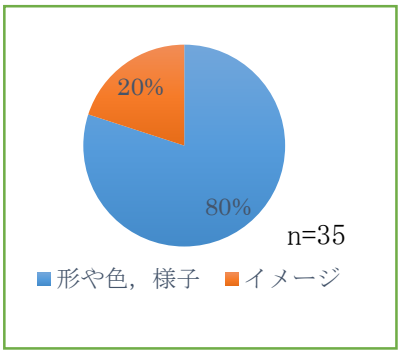


図６　交流活動で話し合ったこと

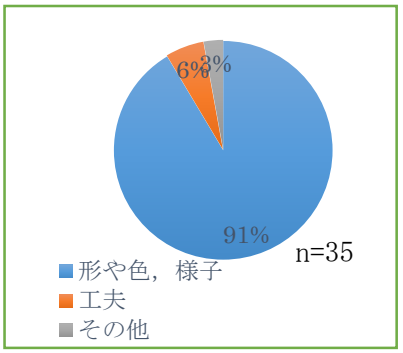


図７　自分の作品についての記述

題材「思い出の場所」は、自分の思い出の場所を選び、その場所の自分なりのイメージをもって絵に表わす学習です。児童のもったイメージには「明るい感じ」「落ち着く感じ」「元気が出る」などがありました。

視点１：絵を描くときに意識したこと

ほとんどの児童が、絵を描くときに自分のイメージに合うようにするためにその場所の形や色、様子を意識しています。そのうち、43％の児童が形や色、様子の複数の造形的な特徴を意識して、創造活動を行っていました（**図５**）。

自分のイメージに合うようにするためには、形や色、様子などの造形的な特徴を基に考えるようになっていることが分かります。

視点２：交流活動で話したこと

描いた絵を基にした交流活動では、80％の児童が形や色、様子、20％の児童がイメージについて話し合いを行っていました（**図６**）。事前調査では約半数の児童が作品をとらえる視点を「工夫したところ」と回答していたのに対して、本題材では、全ての児童が形や色、様子やイメージを基に話し合っており、形や色を意識することで児童が自分の見方や考え方を広げていることが分かります。

視点３：自分の作品についての振り返り

自分の作品についての振り返りでは、91％の児童が形や色、様子について記述していました（**図７**）。主な記述は「次は奥行きがちゃんと描けるようにしたいと思う。遠近や重なりが難しかった。でも重なりが上手に描けたからよかった。次はもっと遠近に挑戦したい。」、「こんなに遠近感を出したり立体感を出したりしたことがないのでいい経験になった。」、「影を塗るときは、黒ではなく、その色の黒っぽい色にすることを友達と話して気付きました。次、色塗りをがんばりたいです。」「色塗りはベタ塗りにならないように注意したいです。ぼかしたり、重ね塗りをしたりして工夫したいです。」などです。自分の作品について「上手」「下手」「自信がない」などではなく、形や色、様子の造形的な特徴に目を向けた振り返りができており、自分のイメージに合う形や色などを考えていることが分かります。

本実践においては、児童が自ら形や色を意識して言語活動を行う姿が見られました。児童は、形や色を意識することが自分なりの表現につながることを感じていました。

オ　小学校図画工作科における成果と課題

成果

本研究では、児童の見方や考え方を深めるために〔共通事項〕に含まれる造形的な特徴のうち、形や色を意識して学習過程の中に言語活動を取り入れました。具体的には、考える段階での、形や色、様子やイメージを基に考えたことをワークシートに書く活動、交流する段階での、ワークシートや描いた絵を基に話し合う活動、深める段階の、交流活動を経ての自分の見方や考え方を深める活動の３つの言語活動です。これらの言語活動を繰り返し行うことで、児童は、自ら形や色の造形的な特徴を意識して、作品をとらえるようになり、ワークシートに書く活動や交流活動を通じて見方や考え方を広げ、深めていくことができました。

(ｱ)　形や色の視点をもたせるための電子黒板、黒板、掲示物の活用について

・つかむ段階(導入)において、電子黒板や黒板を目的に応じて使い、児童が形や色の造形的な特徴を意識できるようにしたことで、造形的な特徴を基に書く活動にスムーズに入ることができました。
・ワークシートの記入の仕方や文章の型を電子黒板で提示したことは、児童の書く活動への抵抗を少なくし、形や色、様子を基に自分なりのイメージをもつことにつながりました。

(ｲ)　形や色を意識したワークシートの工夫について

・作品を自分だけで鑑賞できるように一人一人に鑑賞する作品を持たせました。そのため、手元で作品を鑑賞することができ、集中して形や色、様子を基に感じたり考えたりしたことを書く活動に取り組むことができました。鑑賞用に持たせた作品は、ポートフォリオとして蓄積できるサイズにしたことで、次の学習にも活用できました。
・ワークシートの形や色の造形的な特徴を記入するポイントの欄から、自分なりの考えを書く瀾に矢印を引くようにしたことで、児童がどの造形的な特徴を基に感じたり考えたりしたのかが分かりやすくなり、感じたり考えたりしたことを上手く文章化することができない児童への支援もしやすくなりました。

(ｳ)　形や色を意識させた交流活動について

・交流の仕方が分かるように「交流の決まり」を電子黒板で提示したことで、児童は迷うことなく交流活動に入ることができました。
・形や色を根拠に感じたり考えたりしたワークシートを基に交流することで、児童は自信をもって話し合うことができました。
・ネームカードを活用したことは、児童にとってもクラス全体の交流の進み方が視覚的に分かりやすく、交流ができていない友達の所へ進んで行って話し合う姿が見られるなど、児童の主体的な交流を促すことに有効でした。そのことで、児童は様々な見方や考え方を知ることができ、見方や考え方を広げることになりました。

(エ)　学習の振り返りの工夫について

・形や色、様子を基にした振り返りの視点を掲示したことで、児童は、形や色、様子を意識して振り返りをすることができました。

・深める段階での形や色、様子を基にした振り返りをワークシートに書く活動は、学習したことの定着に有効であり、形や色を意識した次の学習へとつながり、児童は自分の見方や考え方を深めることにつながりました。

課題

交流活動では、児童は形や色、様子の造形的な特徴を基に、自分の考えを話し合っていました。中にはワークシートに記述していないことも活発に話し合う姿が見られ、交流活動の場面での話し合いについてもしっかり把握し、指導に生かすことが、児童の見方考え方を深めるためには大切だと感じました。今後は、交流活動の場面での児童同士の相互評価も含めて、児童の見方や考え方を深める指導方法を探っていきたいと考えます。